

## 解説

MRI は過去の医師国家試験（113F80）から借用した。脳動脈解離は動脈壁の層の分離で起こる。外膜下で解離すると偽性動脈瘤となる。動脈解離では通常頸部痛や頭痛などの局所症状に続いて脳梗塞を発症することが多いが、無症状やくも膜下出血を起こすこともある。この症例では、椎骨動脈に動脈乖離があり、そのために、椎骨動脈本管あるいは後下小脳動脈の狭窄により、Wallenberg 症候群をきたしたと推論される。

臨床所見から動脈解離が疑われた場合は神経画像検査で長細くなった動脈狭窄や、先細りの閉鎖、解離性動脈瘤、内膜の裂け目、二重腔、壁内血腫を確認する。動脈解離で虚血性脳卒中となった場合は、一般的な脳卒中治療を行う。SAH となった場合は再出血を起こすことが多い。

1. 正解 a, b

2. 正解 e